



季節のエッセー
いわての野草

文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

「サラシナシヨウマ」
(キンポウゲ科)

暗い林の縁などで、五十センチほどに達する巨大な花穂を、ヌーッと伸ばしている。宮沢賢治の童話に登場する、気のいい山男とでもいったところだ。しかし、この花穂を間近で見ると、そのイメージはガラリと変わる。無数の雄しべを持った純白の花が、びっしりと並んでいる様子は、息をのむ美しさである。そう言えば、キンポウゲ科の植物には、みごとに雄しべを持ったものが多い。秋の空がよく似合うアキカラマツなども、その一つ。雄しべが、ハシヤ、ハシヤと飛び出している花の様子が、カラマツの新芽にたとえられた。それでは、サラシナシヨウマとはいかなる意味かと言えば、若芽をゆで、よく晒して食用としたところから「晒菜」。

根は漢方で「升麻」という熱さましの薬にされた。

参考資料:澤口たまみ著『岩手の野草百科』(岩手日報社発行)より

特集

『三方良し』の
和牛県内一貫生産
体系確立への取組み

畜産酪農部

純情産地発 クララー K L A R A vol.807 2016.10

タイトルのKlara (クララー) は、宮沢賢治の手帳に書かれている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

みんなの力で!



がんばろう!岩手
純情産地いわて

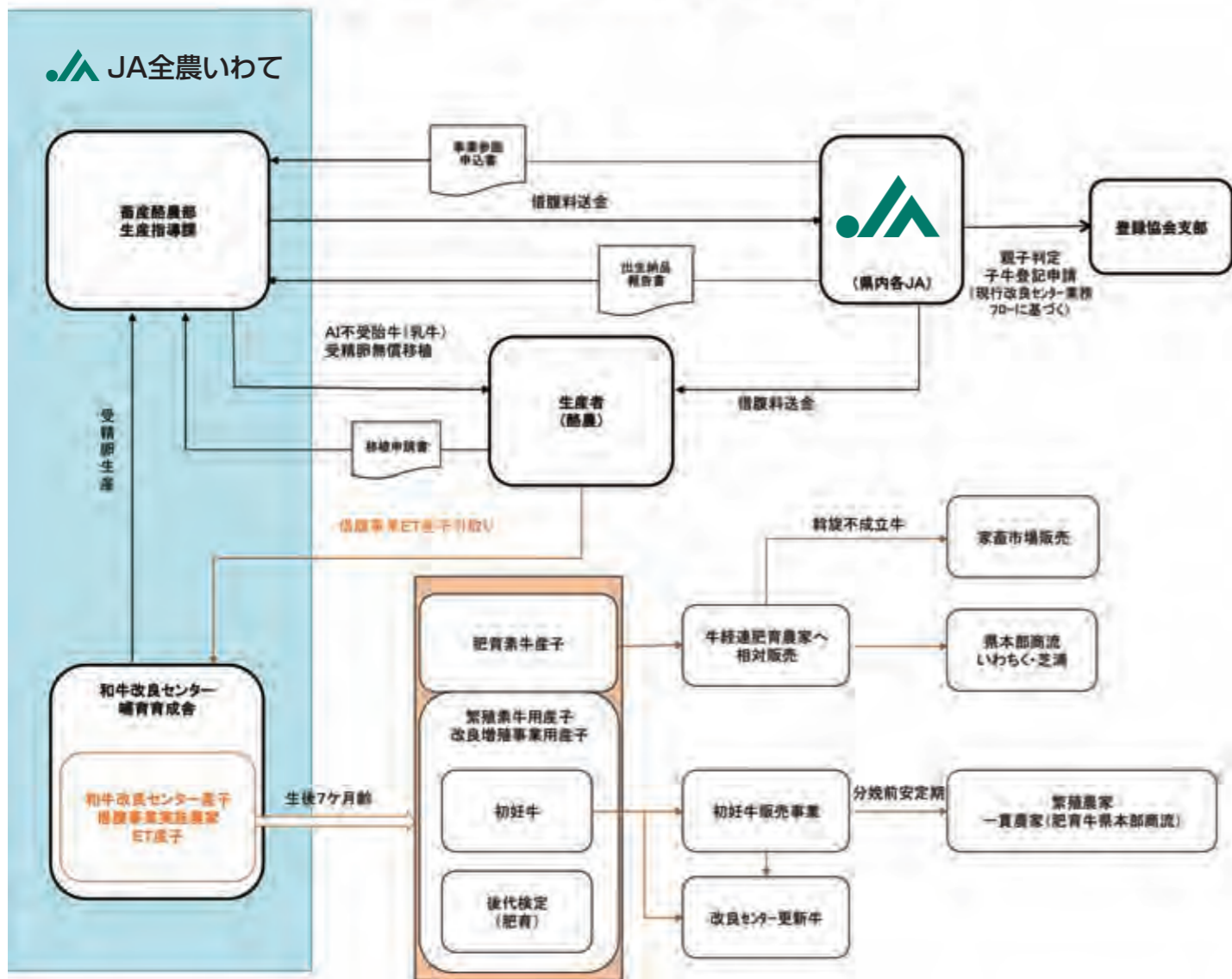
contents

季節のエッセー いわての野草	02	みんなの分教場	07
特集 『三方良し』の和牛県内一貫生産体系確立への取組み	03	報告! 出向く活動班	08
消費地だより	06	純情人	09
JAタウン いわて純情館	06	純情むすめ活動記	09
		ニュースワイドアングル	10



- (1) 近年乳用牛の人工授精による乳用牛の受胎率が極めて低下してきており、酪農家における生産性が低下。
 - (2) 全国的に和牛繁殖農家の年齢層が高く、生産基盤を拡大する生産者はいるものの廃業による基盤の減少が進行。
 - (3) 和牛子牛頭数の減少により肥育素牛価格が高騰を続け肥育農家の再生産が厳しい状況
 - (4) 和牛子牛頭数の減少により肥育素牛価格が高騰を続け肥育農家の再生産が厳しい状況
- 平成29年 4月～平成29年3月 300頭（25頭/月程度）
- ③ 月齢・肥育素牛用産子は8ヶ月齢未満で幹旋し、不成立の牛は子牛市場へ上場。
 - (3) 幹旋予定価格
借り腹料+和牛改良センター生産費（牝2000千円、去3000千円）
※生産費は毎年度算出
※体價格差・血統格差あり
 - (4) 幹旋販売対象者
牛経連肥育生産者へ販売
- ### 5. 初妊牛供給事業の骨子
- (1) 繁殖用素牛産子は初妊牛にし、分娩前の安定期に繁殖生産者又は一貫肥育生産者（肥育牛県本部商流）へ販売
※和牛改良センター更新牛は事前に除外
 - (2) 販売開始は平成30年度とする
 - (3) 幹旋予定価格は借り腹料+和牛改良センター生産費

借腹受精卵移植事業を活用した地域一貫生産フロー



1. 背景

昨年、畜産酪農部に生産指導課を開設したことにより、系統機能を活かした酪農家・和牛農家（肥育・繁殖）・JAグループが連携する『三方よし』（売り手よし、買い手よし、世間よし）の和牛県内一貫生産体系確立への取組みを始めました。

人工授精では受胎しない酪農家の不受胎牛を借り腹とし、和牛受精卵を受胎させ産子を早期に引き取ることで、乳牛の淘汰防止と哺育の省力化が図られます。さらに、その受精卵産子等を肥育素牛として県内に供給し、優良雌牛は初妊牛として繁殖農家に供給することで、肥育農家の生産コスト低減と繁殖農家における改良、増頭を図ることができます。

乳用牛の受胎状況

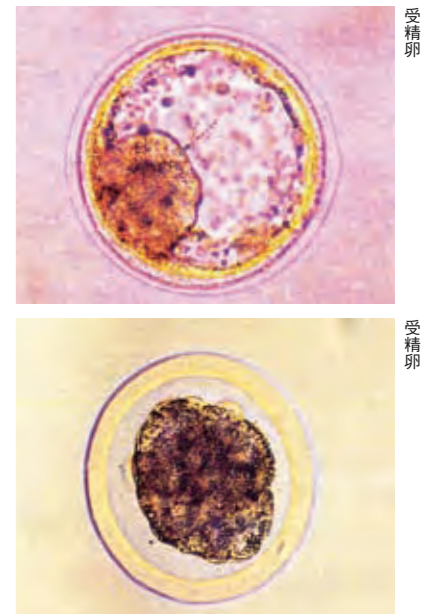
回数	年度	元年	5年	10年	15年	20年	25年
初回		62.4%	62.2%	55.1%	51.3%	46.1%	44.3%
1～3回		62.0%	61.4%	54.3%	49.5%	44.6%	44.1%

2. 『三方よし』の理由

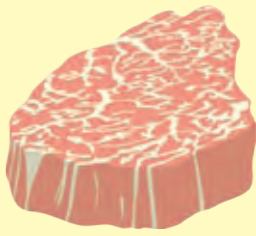
- (1) 売り手（酪農家）よし
人工授精で受胎しない乳用牛であっても受精卵移植で受胎することがわかっており、無償で受精卵移植できることで、受胎により搾乳牛の寿命が延長し、後継牛の繰入頭数が減少すること、更には副産物代（借り腹料）も発生することから酪農家にとってはノーリスクで、非常に大きい経済効果が得られる。
 - (2) 買い手（和牛農家）よし
和牛肥育農家は、借り腹料と和牛改良センター生産費相当で肥育素牛の導入が可能となることで、素牛価格が高騰した生産費の圧縮による生産基盤の維持や、繁殖農家における牛舎の生産性向上が図れる。
 - (3) 世間（岩手の畜産）よし
本会の取り組みを生産モデルとして、今後各地域で同様な生産体系の普及を図ることで、岩手特有の和牛一貫生産体系を確立し安定した和牛生産につなげる。
- ### 3. 乳牛借り腹受精卵移植事業の骨子
- (1) 借り腹となる受卵牛は乳牛とし、酪農家から依頼のあった人工授精不受胎牛で受胎が優先される牛（受胎すれば何が受胎してもいい牛）に、県本部が無償で移植する
 - (2) 受精卵移植は県本部が製造し所有する受精卵を使用し、県本部職員が実施する。

4. 肥育素牛供給事業の骨子

- (1) 乳牛借り腹受精卵移植事業産子並びに和牛改良センター産子を幹旋販売で供給
※繁殖素牛用産子、育種改良増殖事業用産子を除く
- (2) 幹旋販売開始時期並びに頭数
① 時期…平成28年10月
② 頭数…平成28年10月～平成29年3月 90頭（15頭/月程度）
- (3) 受胎・出生した場合、生産者は県本部が定める衛生並びに管理マニュアルに従い、受卵牛と産子の飼養管理をする。
- (4) 産子は出生後概ね2週間以内に県本部が引き取る。
- (5) 産子の親子判定並びに子牛登記申請は県本部が実施する。
- (6) 産子の引き取りが成立した場合、JAから提出のあった出生納品報告書に基づき、JAを通して借り腹料（出生前月の本会中央家畜市場初生牛交雑種平均価格）を支払う。



消費地だより



今月のリポーター
消費地販売課
高橋 司

第14回岩手県農協肉牛枝肉研究会

9月13日、東京食肉市場において、第14回岩手県農協肉牛枝肉研究会が開催されました。この研究会は、本県肉牛統一銘柄「いわて牛」の銘柄確立及び肉用牛の肥育技術の確立を図るため、生産者と市場仲卸業者との相互理解を深め、枝肉の品質向上及び経営意欲の

高揚を図ることを目的し、出品条件では系統飼料を給与していることと定められております。今回は雌14頭、去勢26頭、計40頭の出品で開催され、最優秀賞は新しいいわて農協の中村鉄男さんが受賞され、2862円/kg(588kg)の単価がつけました。



第14回岩手県農協肉牛枝肉研究会成績

販売成績	頭数	平均枝肉重量	平均販売単価	平均販売金額
雌	14頭	430kg	2,514円	1,079,528円
去	26頭	527kg	2,520円	1,329,108円
合計	40頭	493kg	2,518円	1,241,755円

入賞区分	農協名	氏名	性別	枝肉重量	単価	販売金額
最優秀賞	新しいいわて	中村 鉄男	去勢	588kg	2,862円	1,682,856円
優秀賞	岩手ふるさと	千葉 辰美	去勢	588kg	2,846円	1,673,448円
優秀賞	新しいいわて	前 茂見	去勢	551kg	2,701円	1,488,251円
優良賞	岩手ふるさと	佐々木靖司	雌	423kg	2,951円	1,248,273円
優良賞	岩手ふるさと	渡辺 悟	雌	386kg	2,888円	1,114,768円
優良賞	いわて平泉	佐々木順一	去勢	594kg	2,825円	1,678,050円

また、前日には市場関係者・生産者・農協約50名が集まり前夜祭が開催され盛大に盛り上がりました。研究会は体型、造りが良い牛も多く、生産者の方々の日々の努力が形となって現れた結果となりました。純情むすめも応援に駆け付け当日のセリに花を添えてもらい、平均販売単価は昨年より約200円/kg上がり高値で取引をしていただきました。市場購買者の方々には「いわて牛」を精一杯応援していただいております。首都圏にも「いわて牛」のファンが沢山いらっしゃいます。畜産情勢は非常に厳しい中ですが、生産者と消費者の懸け橋になるように「純情産地いわて」として安全・安心かつ美味しい「いわて牛」をお客様に届けるため、日々取り組んで参ります。

みんなの分教場



園芸部 生産販売課
技術主管
菊池 利行

加工・業務用野菜への対応

近年、生活スタイルの変化とともに「食の外部的」が進み、食料消費に占める生鮮食品の割合が大きく減少しています。野菜にあつても、生鮮野菜の購入よりもサラダ等の加工調理食品の購入が増加しています。

野菜需要の変化

野菜需要のうち加工業務用需要の割合は、増加傾向で推移し、全体の六割程度となっております。家庭消費用では国産割合はほぼ百パーセントですが、加工・業務用では三割が輸入野菜を利用したものととなっております。(※1)

利用者の動向

加工業者や外食提供者への意向調査では国産野菜を利用したいとの回答が四割を超えていますし、消費者へのアンケートでは割合でも国産野菜を選びたいとの回答が六割となっております。(※2)

野菜の輸入状況

輸入野菜は中国冷凍ギョウザ事件等もあり一時減少していましたが、平成二十二年以降増加に転じています。輸入量が多い品目は「たまねぎ」、「かぼちゃ」、「にんじん」、「ねぎ」など。このうち「たまねぎ」、「にんじん」、「ねぎ」で加工・業務用割合が高くなっています。

このような状況に対し、本県でも大型農家や集落営農組織を中心に加工・業務用野菜への取り組みが増加してきました。

求められる品質・規格

加工・業務用野菜では取引相手の要望(用途に沿った製品を安定的に低コストで供給する必要があります)。

たとえばカット用や加熱調理用「キャベツ」では葉質が硬く水分含量の少ない寒玉系が基本で十キログラム六玉程度の大玉が求められます。

また、「たまねぎ」ではサラダ用には辛みが少なく甘みがあるもの、加熱調理用には水分含量が低く、煮崩れや形崩れにくいものが求められます。いずれもL大〜2L以上が基本となっております。

今後の展開

全農いわてでは園芸部に担当職員を二名配置し、有利販売のための取り組みを進めてきました。

また、低コスト安定生産のためには機械化一貫体系を確立する必要があります。そのための実証試験を関係機関と協力しながら進めているところです。



キャベツ収穫機(後ろに鉄コンを載せている)



たまねぎピッカー(拾い上げてコンテナへ)



たまねぎ全自動定植機

本県の農地は中南部の平場ではほ場排水、県北部では傾斜地が多いなどの課題がありますが現場の需要に応え、生産者の収入拡大のためにも早期に技術の確立を行うことで執りすすめていきます。

※1 農林水産政策研究所調べ
※2 農水省および日本政策金融公庫調べ

産地直送通販サイト

JAタウン いわて純情館

注目の一品!



岩手県産和牛「いわて牛」を使用したローストビーフです。いわて牛の肉の旨みとしっとりやわらかい食感をお楽しみください。

いわて牛ローストビーフ (300g)

「いわて牛」とは、岩手県内で肥育された黒毛和種で、日本食肉格付協会が実施する枝肉格付の、肉等級A・Bで5等級、4等級、3等級のもので。その「いわて牛」を使ったローストビーフをご賞味ください。また、ローストビーフソースは厳選されたレホール(西洋わさび)を程良くブレンドし、ローストビーフをよりおいしく召し上がっていただくために、風味豊かなソースに仕上げました。

JAタウン「いわて純情館」では純情ブランドを全国の食卓にお届けしています。

いわて純情館



報告！ 出向く 活動班

新規就農者確保・育成に対する支援



今回の報告者
担い手サポートセンター
出向く活動班
佐藤 守

新規就農者の確保・定着化を支援するため、JAいわてグループでは、農業担い手サポート事業の一つに新規就農者・後継就農者育成対策を準備して、JAと共同で支援活動を行っています。

この対策は平成26年度からJA全農いわてが実施してきたもので、これまでの事業の成果と今後の支援の参考とするために、抽出調査を行いましたので概要を紹介させていただきます。

1 新規就農者・後継就農者育成対策とは

「新規就農者が新たに就農するために必要な初期投資への支援」並びに、次代を担う後継就農者の支援強化を図る」ことを目的に、生産費用の1/4以内の額を50万円又は100万円を上限に助成してきたもので、2カ年間で1000件、2420万円の助成を行っています。

2 調査の概要は

県内7JAのTAC及び県域TACの共同取り組みとして、本年6月及び7月の2ヶ月間で、助成金額の多い23名から承諾を得て訪問調査を実施させていただきました。

調査の内容は就農の経緯、経営概要、経営目標や課題等についての聞き取りと、JAの担い手に対する指導方針や内容についても確認させていた

いただきました。

3 調査結果は

就農区分では新規学卒就農者(後継者)2名、新規参入者5名、残り16名が離職就農者(後継者)で後継就農者が全体の80%を占め、認定新規就農者11名と認定農業者7名の18名が就農計画を策定しており、意欲を持って農業経営に取り組んでいます。

就農の動機は大半が農業後継者としての就農を選択しておりますが、平成23年の東日本大震災で食料生産の大切さを知り夫婦で就農された方、不況での離職から就農を選択された方もおられました。

就農にあたり、初期費用の確保や生活費を獲得するために各種新規就農者対策を総合的に活用されていますが、就農相談や生活設計、農地の確保などソフト面の充実が求められております。

JAにおける農業の担い手の確保・育成を図るための独自の取組みについて参考事例としてご紹介いたします。

【参考事例】

①JAいわてふるさとでは「農業マイスター制度」を平成16年から実施、就農志向者の栽培技術や作業技術の研修及び就農準備のサポートを

行っています。

②JAいわて平泉トマト生産部会では「担い手班」と言う若手担い手の組織化を図ることに、先輩農業者との活動を通じて技術習得の向上や幅広い相談活動につながったことで、部会全体の活性化と生産性の向上に結びついています。

③JA江刺では新規就農者等の園芸施設整備にあたって「攻めの農業実践緊急対策事業」を導入することで、極力生産者の施設負担を削減することができて、早期定着化に大きな役割を果たしています。

最後に、農業担い手サポートセンターは新規就農者の確保と定着化を支援するために実効の上がる対策を提供すること、JAとの共同取り組みの充実を図って参ります。

後継就農者 三浦博正&幸夫さん(兄弟) (一関市) 兄:肉用牛一貫 弟:酪農



新規参入者 五十嵐学&真美さん (水沢区・群馬県から) 施設ピーマン



後継就農者 土谷嘉孝さん(親子) (葛巻町) 肉用牛繁殖



新規参入者 千田正明さん (江刺区) 施設ピーマン



(表) 新規就農者等支援対策の概要

区分	事業対象件数			調査対象
	H26	H27	計	
JA新いわて	16	35	51	6
JAいわて中央	5	3	8	3
JAいわて花巻	1	3	4	4
JA岩手ふるさと	4	7	11	4
JA江刺	4	7	11	2
JAいわて平泉	5	1	6	3
JAおおふなと	2	7	9	1
計	37	63	100	23



笑顔が はじける 純情むすめ 活動記

いわて純情豚と共に焼けたIBCまつり2016!



2016いわて純情むすめ
千葉 絢加

わたしは9月3日・4日に滝沢市のアピオで行われた「IBCまつり」に参加させていただきました。IBCまつりには一度も来たことがなかったので、とても楽しみにしておりました。

今回のお仕事は、一日目が「ひとめぼれを使ったおにぎり」と「純情農園でとれたトマト」の販売、二日目が「いわて純情豚を使った豚汁」の販売と「純情豚の焼肉無料振る舞い」の対応を行いました。



おにぎりの販売では、職員の方が作ってくださいました。メニュープレートを持って呼び込みをしました。子連れの方やお年寄りの方が、岩手のひとめぼれと聞いて買って下さるものが多かったのです。皆さん食の安全に気を遣っているのがよく分かりました。

いわて純情豚の無料振る舞いは一日三回実施したのですが、どの時間もたくさんの方に並んでいただきました。なかには、自分の前で焼肉がなくなってしまう方が次の時間にもいっしょに並んで



活動から三ヶ月がたちましたが、活動の度に生産者の方々の努力があつて岩手の農畜産物は、県内の方々に限らず全国の方にも愛されているのだと感じています。岩手の農畜産物の魅力について、食の安全についても、もっとたくさんの方に伝えられるよういわて純情むすめとして責任をもって今後も活動していきたいと思ひます。



下さった時は、とても嬉しく思いました。お客様と話をしたときにいわて純情豚を知らない方が多かったため、このIBCまつりを機にたくさんの方に知ってもらえたのではないかと思います。

この二日間、多くの出店が並ぶ中で興味をもって貰えるようにPRをすることは、思っていた以上に難しかったです。しかし頑張った分、人の優しさをたくさん感じる事ができました。天気にも恵まれました。来年よりも暑いと言われた中で活動でしたが、美咲ちゃんと励まし合いながら楽しく活動することができました。無事全て販売することができ、ここまでの日焼けは頑張った勲章です。

JA全農いわての 純情人

じゅん じょう びと

管理部
総務人事課
つがわ ひろか
津川 絢香さん

趣味・特技
水族館巡り・水泳・ドライブ

現在の担当業務
給与関係業務・県本部受付

これからどんな職員になってみたいか
職員やお客等、様々な方に接する機会が多い業務ですので、どのような場面にも臨機応変に対応できる頼れる職員になりたいです。そのためには、日々周りでのようなことが起きているのかをしっかりとアンテナを張って理解することを心掛けたいと思ひます。

最優秀賞「錦秋の風」

9月2日(金)、3日(土)

いわてフラワーコンテスト2016

JA全農いわて園芸部花き・資材課は北上市にある岩手県農業研究センターにて、いわてフラワーコンテスト2016を開催しました。県内花き生産者の技術向上と生産意欲の高揚を図るとともに高品質な花きを県内外へ広くPRすることを目的としたこのコンテストは、1日目に審査、2日目に一般公開および販売を行いました。本県産花きの主力品目である、りんどうや小菊などをはじめとする119点が出品され、JAいわて花巻の古田孝男さんが出品したりんどう(品種:錦秋の風)が最優秀賞(農林水産大臣賞)に選ばれました。翌日の販売では出品された110点が完売し、最優秀賞・優秀賞・一等賞に選出された9点は盛岡市のフェザン地階にて展示され、買い物客の心にも花を添えました。

最優秀賞

農林水産大臣賞	JAいわて花巻(西和賀)	吉田 孝男	りんどう 錦秋の風
---------	--------------	-------	-----------

優秀賞

農林水産省 生産局長賞	JAいわて花巻(北上)	小原 良子	小菊 小鈴
農林水産省 東北農政局長賞	JA新いわて(東部)	及川 慈哉	トルコギキョウ バレオマリン
岩手県知事賞	JA新いわて(八幡平)	三浦 正美	りんどう 安代の輝き
岩手県知事賞	JA新いわて(南部)	茅橋 寿男	ひまわり ビンセントネーブル



最優秀賞「錦秋の風」(りんどう)

いわて牛の美味しさをPR!

9月8日(木)

岩手県農協養豚経営者連絡協議会研修会

岩手県農協養豚経営者連絡協議会は花巻市内のホテルにて研修会を行い、生産者やJA全農いわておよび関係会社の畜産担当者など計41人が出席しました。この研修会は、養豚経営者の相互研鑽および生産者やJA、関係会社が連携して安心で安全な豚肉を消費者へ供給することを目的に開催され、今年度で11回目。養豚や飼料の情勢報告を行ったほか、平成27年度肉豚出荷成績優秀者への表彰式が行われ、JA新いわての八幡平ファームが去年に引き続き総合部門の最優秀賞を受賞しました。

その後、JA全農家畜衛生研究所クリニックセンター東北分室の鮫ヶ井靖雄さんが「豚丹毒の発生と対応事例について」と題し、発生防止策および生ワクチンについての説明を行いました。養豚経営者や各関係者は消費者へ安心して豚肉を供給する知識向上に努めました。

平成27年度肉豚出荷成績優秀賞受賞者は以下のとおりです。

部門	賞	受賞者	地区
総合部門	最優秀賞	農事組合法人八幡平ファーム	JA新いわて(久慈)
	優秀賞	農事組合法人八幡平洋野牧場	JA新いわて(久慈)
	優良賞	FVファーム(平谷東英さん)	JA新いわて(久慈)
部門別賞	《年間肉豚出荷頭数2,000頭以上》		
	出荷頭数平準率部門賞	FVファーム(平谷東英さん)	JA新いわて(久慈)
	肉質上物率部門賞	農事組合法人八幡平洋野牧場	JA新いわて(久慈)
	ストライク率部門賞	農事組合法人八幡平ファーム	JA新いわて(久慈)
	《年間肉豚出荷頭数2,000頭未満》		
	出荷頭数平準率部門賞	木村誠さん	JAいわて花巻(北上)
	肉質上物率部門賞	木村誠さん	JAいわて花巻(北上)
ストライク率部門賞	斎藤清利さん	JA新いわて(宮古)	



各部門の受賞者



秋といえば収穫の秋。収穫といえば稲刈り。稲刈りといえば「銀河のしずく」ですよ？いよいよこの秋、岩手県オリジナル新品種「銀河のしずく」がデビューしました!「銀河のしずく」は、昨年収穫された米の食味ランキングで県オリジナル品種として初の「特A」を獲得するなど、これから岩手県を代表し

ていく品種として大きな注目を浴びています。私も銀河食堂で「銀河のしずく」を初めて食べましたが、粒が大きめで、粘り気が強い印象。噛むほどに甘みが増し、とても美味しかったです。県内では4日から販売開始。量販店にて購入できますのでぜひ皆様も1度ご賞味ください。(小野)

来場者数3万人超え!

9月3日(土)、4日(日)

IBCまつり2016 in アピオ

毎年恒例となっているIBCまつりが盛岡産業文化センターアピオにて開催されました。JA全農いわては県産食材を使用したおにぎりや豚汁を販売。また、いわて純情豚焼肉の無料試食会を実施し、消費拡大に向けたPRをしました。焼肉の試食をした子どもたちは「おいしい」「塩コショウが1番美味い」と笑顔がこぼれました。販売したおにぎりや豚汁が両日とも完売するなど大きな賑わいを見せました。

同会場ではミルクフェア2016いわてと題し、酪農に対する消費者意識の向上および牛乳・乳製品に関する知識の普及や消費拡大を図るため、県産ヨーグルトの試食を行いました。また、台風の影響により甚大な被害を受けた(株)岩泉乳業へ向けた応援メッセージブースを設けたところ、「早く復興してほしい」「岩泉ヨーグルトが食べられないのは寂しい」などのお声をいただき、多くのお客様が募金してくださいました。いち早い復興を願うとともに、これからも県産農畜産物の普及と消費拡大に向けた取り組みを行っていきます。



試食会開始時間前から長い行列ができました

「銀河のしずく」ついにデビュー!

9月19日(月)・21日(水)

銀河のしずく刈り取り式

今秋デビューする岩手県産米の新品種「銀河のしずく」が収穫期を迎え、19日に花巻市、21日に矢巾町でそれぞれ刈り取り式が行われました。

銀河のしずくは背丈が低く、茎が太いので、風に強く倒れにくいのが特徴。病気に強い、栽培しやすいのも魅力の1つとされています。さらに、昨年収穫された米の食味ランキングで県のオリジナル品種として初の「特A」を獲得するなど、大きな注目を浴びています。

生産者、農協関係者に加え19日は上田東一市長と畠山俊彰県本部長が、21日は達増拓也知事が式に参加。自らコンバインに乗車し刈り取りを行った達増知事は「力強い手ごたえを感じました。台風など気候による心配があったが無事に育って嬉しい」と喜びを語りました。

食味・品質ともに評価が高い「銀河のしずく」の希望小売価格は2キロ千円(精米、税抜き)を予定し、県内で10月4日、県外は同7日から発売します。



感触を確かめながら稲を刈る達増知事

第3区岩手県出品候補決定

8月30日(火)・9月6日(火)

全共第3区地区選抜幹旋会

和牛能力共進会岩手県出品対策委員会は、8月30日に県南家畜市場、9月6日に中央家畜市場にて平成29年9月に宮城県で開催される「第11回全国和牛能力共進会(全共)」に向けての第3区(若雌の2)地区選抜幹旋会を行いました。第3区は、出品時に17~20ヶ月未満の若雌を対象とした出品区で、今回は両会場合わせて28頭を選抜。なお、8月30日に県南沿岸で猛威を振った台風10号の影響により、宮古地区、久慈地区の対象牛については集畜を見合わせました。この対象牛については後日、個体確認を行い選抜します。

いわて和牛中央育種組合の小野寺組合長は「今回の台風で被災した地域はゼロからのスタートと思い、復興に向けて頑張っています。選抜された生産者にも同様にゼロからのスタートと考えて頑張ってくださいたいです」と前向きに語りました。今回選抜された



選抜牛(6日、中央家畜市場)

28頭は、今回集畜を見合わせた地区からの選抜牛を加えて、残り2回の選抜会を経て計2頭(代表牛1頭+補欠1頭)に絞られ、岩手県代表として出品されます。

岩手県新品種「紅いわて」

9月16日(金)

紅いわてトップセールス



鮮やかな紅色が目を惹きます

JA全農いわて園芸部生産販売課は、行政・農業団体など産地関係者と流通関係者が一体となって、県内消費者へPRすることを目的に盛岡市中央卸売市場および大阪市中央卸売市場本場にて、岩手県新品種「紅いわて」のトップセールスを行いました。紅いわては、従来品種「つがる」と「プリシラ」のかけ合わせで生まれ、全面が濃い紅色に着色されているのが特徴、県育成りんごとしては初の赤系品種です。味は、岩手ならではの気温差により甘味が強く、果汁が多いので子どもも食べやすいりんごに仕上がっています。

紅いわてについて本会畠山俊彰県本部長は「皆さんの力をお借りして、大事に育て、岩手の代表にさせていただきます」と意気込みを語りました。その後行われた初競りでは(有)フルーツ・タケウチの北山勉さんが1箱28玉入を6万円で購入し、「盛岡駅で県産果物のPRをしている、10月にはいわて国体が開催され、絶好のチャンスなので、全国に広めていきたいです」と笑顔で話しました。

本年度から、「紅いわて」と極早生の「紅ロマン」と合わせて「紅色シリーズ」と称してセット宣伝を開始する予定です。



夏に出会える真っ赤なりんご

紅いわた 紅ロマン

いわての秋に真っ赤に実る

いわて純情りんご



紅いわた

9月中旬～下旬に収穫

「紅いわた」は「つがる」と「プリシラ」のかけあわせで生まれた、注目のりんご。いわての秋に真っ赤に実るりんごとして親しまれるよう、願いを込めて命名されました。澄んだ空気と豊かな大地に育まれた「紅いわた」の甘みをお楽しみください。



紅ロマン

8月上旬～中旬に収穫

「紅ロマン」は「シナノレッド」と「さんざ」のかけあわせで生まれた、極早生のりんご。夏の終わりに登場し、暑さの中でも甘みが強く酸味とのバランスがとれた爽やかな味です。いわてにりんごシーズンの訪れを告げる、真っ赤な果実「紅ロマン」をぜひご賞味ください。



私たち全農グループは、**生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋**になります。

- 私たちは「安心」を3つの視点で考えます。
- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
 - 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
 - 地球の環境保全に積極的に取り組みます。